

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	藤井 宏之	学校名	東京 ⑧・道・府・県 立 千早 高等 学校
担当教科等	商業	対象学年 (人数)	3年 組 (19名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	令和元年 10月～12月 (10時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：商業		
2. 単元(活動)名：課題研究 (ソーシャルビジネス)		
<p>3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標</p> <p>授業テーマ：SDGsの視点から「パラグアイの社会課題をビジネスの力で解決しよう」</p> <p>単元目標：1. SDGsの視点からパラグアイの社会課題を発見し、ビジネスを通じて解決しようとする。</p> <p style="padding-left: 20px;">2. ポスターセッションを通して、効果的なプレゼンテーションを実践して理解する。</p> <p>関連する学習指導要領上の目標：1. ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探求し、創造的に解決する力を養う。</p> <p style="padding-left: 20px;">2. 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的にかつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs の視点からパラグアイの社会課題について理解している。また、ポスターとプレゼンテーションの基本的な作成方法を理解し、内容を相手にわかりやすく伝えることができる。 ・ 「要約 (和文・英文)、要旨 (英文)、ポスター」の作成を、Word や Excel ソフトを用いて実際におこなうことができる。また、ポスターを活用して、効果的にプレゼンテーションをおこなない、内容の要点を簡潔に相手に伝えることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs の視点からパラグアイの社会課題についての思考を深め、課題解決の方法を各ソフトを用いて表現することができる。また、わかりやすいポスターの制作とプレゼンテーションをするためにはどのような工夫をすればよいか、自ら考え表現することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs の視点からパラグアイの社会課題を発見し解決するための情報の収集やビジネスの解決方法について関心をもち、SDGs の視点から知識を身に付けようと積極的に学習に取り組んでいる。また、要点を相手に伝えるために、わかりやすいポスターを作成し、効果的なプレゼンテーションをおこなおうとしている。

5. 単元設定の理由・単元の意義
(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

現行の学習指導要領の課題研究では、その内容を次のように定めている。上記の3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 関連する学習指導要領上の目標に示す、資質・能力を身に付けることができるよう、次の〔指導項目〕を指導することになっている。(1)調査、研究、実験 (2)作品制作 (3)産業現場等における実習 (4)職業資格の取得 また、内容の取扱いについては、次の2つの事項に配慮するものとし、ア. 課題については、(1)から(4)までの2項目以上にまたがるものを設定することができること イ. 課題研究の成果について発表する機会を設けるようにすること になっている。本時で扱う「SDGsの視点からパラグアイの社会課題をビジネスの力で解決しよう」では、ア. の(1)と(2)が該当している。

【単元の意義】

近年、日本企業の間で、社会課題をビジネスの力で解決するソーシャルビジネスを経営に生かそうとする試みが広がってきている。国連が国際社会の持続可能な発展のために必要な目標Sustainable Development Goals(SDGs)を策定したのがきっかけである。自社の利益だけを優先する時代は終わり、社会課題に向き合った企業行動を考えないと、国際社会で生き残れない危機感が背景にある。日本は課題先進国だからこそ、その課題をビジネスの力を使って解決するソーシャルビジネスのモデルを他国に先駆けて確立することで、日本の国際社会でのプレゼンスを高めるチャンスが到来している。2030年までの社会的課題解決を日本から情報発信し、世界に貢献する。

SDGs時代を迎え、そんな意気込みでソーシャルビジネスに取り組んでいく必要がある。

【児童／生徒観】

本校は英語とビジネス（商業）教育を重視した進学型専門高校であり、教育課程の特色は、英語の必修単位数を23単位設定し、選択科目を含めると最大33単位まで履修可能である。一方、ビジネス（商業）は必修を20単位とし、5単位を英語で代替している。選択科目を含めると最大30単位履修可能となっているが、特に2年生以降はビジネス（商業）分野から興味・関心のある分野に特化して学ぶことができるように編成している。2年生ではベトナムでのビジネス英語研修旅行（修学旅行）を実施している。そのため、海外に興味がある生徒が多い。課題研究（3単位）は7講座開講されており、ソーシャルビジネスの講座では男4子名と女子15名が受講している。

【指導観】

プロジェクト学習の問題解決「IDEAL」5つのステップを用いて、Identify=問題を発見する Define=目標を定める Explore=解決方法を探求する Act=実際に実行して確認する Look=結果を振り返る ことで主体的な課題発見・解決力や協働する力の向上を目指したい。また、パフォーマンス課題の設定として、1. 本質的な問いが活動に埋め込まれていることについて、SDGsの視点からパラグアイの社会課題を解決することが理解されている。2. 共有可能な成果物が作成されることについて、「要約（和文・英文）、要旨（英文）、ポスター」の作成。3. 成果物が何らかのアクションにつながっていることについて、ポスターを活用したポスターセッションをおこなう。

6. 単元計画 (全 10 時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	パラグアイの社会課題を知る	1. SDGs の視点からパラグアイの社会課題を知り、SDGs のどの目標の解決を目指すか明確にする。	1. PC を使い、パラグアイの特徴について、「経済」「社会」「環境」「その他 (ガバナンス)」に関する事実やデータを集めて、課題を発見して、4 つを関連付ける。 2. グループで話し合い、発表して視点を広げる。 3. 広げた視点で、課題の背景や要因について調べ、どの目標の解決をめざすか明確にする。	●『SDGs 探求ワークブック』
2	パラグアイの社会課題を解決できるか考える。	1. パラグアイの『今』を知り、もう一度、SDGs の視点から、どの目標の解決を目指すか明確にする。	1. パワーポイントでパラグアイの社会課題を JICA の取り組みや教師海外研修の訪問先等の説明を聞き、どの目標の解決をめざすか明確にする。 2. SDGs の 17 の目標で、各自が解決する目標を明確にして、目標別に 5 つのグループを作る。	●パラグアイ共和国における JICA 事業の概要 (JICA パラグアイ事務所) ●教師海外研修の訪問先で撮った写真等 (JICA 東京主催)
3~8	パラグアイの社会課題をビジネスで解決できるか考える。	1. 他者の発表を聞き、他者との違いや考えを理解する。 2. グループに分かれて、SDGs の視点からパラグアイの社会課題をビジネスで解決できるか考える。	1. 千葉日報の記事を読んで、SDGs の 17 の目標のどこに該当するか考え、マイクを使って発表をする。 2. 5 つのグループがそれぞれに、SDGs の視点からパラグアイの社会課題を発見し、どうやったらビジネスを通じて解決できるかをグループで考える。 3. ポスターセッションの準備 (テーマ・要約: 和文・英文、要旨: 英文のみ、ポスター) をする。	●千葉日報の記事「千葉から 2 万キロ赤土の国に生きるパラグアイ探訪記」1~6 ●『未来の授業ー私たちの SDGs 探求 BOOK』 ●BGM として、カテウラ音楽団の DVD
9	ポスターを使いプレゼンテーション	1. ポスターを使い効果的なプレゼンテーションの方法を考えて理解する。	1. グループに分かれて、ポスターを使いプレゼンテーションおこない、効果的なプレゼンテーション (ポスターセッション) を考える。	●BGM として、カテウラ音楽団の DVD
10 本時	ポスターセッション	1. 効果的なプレゼンテーションを理解する。 2. 他者が考える、SDGs の視点からパラグアイの社会課題をビジネスで解決できることを理解する。 3. 見学者からの講評を理解する。	1. 2 グループに分かれてプレゼンテーション (ポスターセッション 4 分間・質疑応答 2 分間を 2 セット) をおこなう。 2. 残りのグループは、Poster Session Evaluation Sheet で他のグループを評価する。 3. 他のグループへ付せんに感想を書いて渡す。 4. 各グループ・個人でポスターセッションを振り返る。 5. 振り返りを発表する。 6. 見学者から講評を聞く。	●テーマ・要約・要旨のプリント、ポスター、Poster Session Evaluation Sheet、付せん

7. 本時の展開 (10 時間目)

本時のねらい: 1. SDGs の視点からパラグアイの社会課題をビジネスで解決できることを他者に伝えることができる。

2. ポスターセッションを通して、効果的なプレゼンテーションを実践することができる。(パフォーマンス課題)

3. 他者が考える、SDGs の視点からパラグアイの社会課題をビジネスで解決できることに気づくことができる。

過程・時間	教員の働きかけ	発問および学習活動	指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1. 本時の流れを説明する。 2. 見学者を紹介する。	1. 説明を聞く。 2. 見学者を理解する。	一斉	1. ポスターセッションの流れと見学者を確認させる。	
展開 (35分)	1. ポスターセッションをおこなわせる。 2. 発表をしていない生徒に発表の評価をさせ、付せんに感想を書かして渡すように指示する。	1. 2グループに分かれて、ポスターセッション4分間・質疑応答2分間×2セットをおこなう。 2. 発表をしていない生徒は Poster Session Evaluation Sheet に他のグループの評価をして、付せんに感想を書いて渡す。	グループ 個人	1. 時間をはかり、時間内に終わるようにさせる。(ポスターセッション4分間・質疑応答2分間を2セット) 2. 見学者に英語または日本語で質疑をしてもらう。 3. グループへ1枚書いて渡させる。	テーマ・要約・要旨のプリント、ポスター、Poster Session Evaluation Sheet、付せん
まとめ (10分)	1. 各グループ・個人でポスターセッションの振り返をさせる。 2. 振り返りを発表させる。 3. 見学者の講評を聞かせる。 4. 本時のまとめをする。	1. 各グループ・個人でポスターセッションを振り返る。 2. 振り返りを発表する。 3. 見学者の講評を聞く。	一斉 個人 一斉	・時間をはかり、時間内に終わるようにさせる。 1. (3分間) 2. (3分間) 3. (4分間)	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

1. SDGs の視点からパラグアイの社会課題について理解しているか。

2. SDGs の視点から知識を身に付けようと積極的に学習に取り組んでいるか。

3. ポスターを活用して、効果的にプレゼンテーションをおこない、内容の要点を簡潔に相手に伝えることができているか。

9. 学習方法及び外部との連携

1. JICA 地球ひろば訪問：5月13日(月)13時30分から15時まで

- ・地球体験学習コース〈体験ゾーン探検〉イノベーションってナニ？展 驚きのアイデアとテクノロジー
〈地球体験学習〉チョコレートのワークショップ

2. JICA 国際協力出前講座：9月12日(木)13時10分から14時10分まで

- ・〈講師氏名〉梶恵一さん〈種別〉元青年海外協力隊員〈派遣国〉スリランカ

3. JICA 地球ひろば訪問：1月16日(木)13時30分から15時まで

- ・地球体験学習コース〈体験ゾーン探検〉みんなで考えよう！ゴミと地球の未来展
〈地球体験学習〉SDGsのワークショップ

4. JICA 国際協力出前講座：1月20日(月)13時10分から15時10分まで

- ・〈講師氏名〉麻生賢太郎さん〈種別〉元青年海外協力隊員〈派遣国〉パラグアイ 〈職種〉バドミントン

5. 2年生(207名) グローバル10 3月23日(月)9時00分から12時00分まで

- ・〈講師氏名〉立川巧雪さん・立川いずみさん〈種別〉起業家(パラグアイ)
〈企業名〉Architecture & Design TACHIKAWA Design Studio

今年度、教科(商業)科目(課題研究)「ソーシャルビジネス」を担当することになり、これからのビジネス教育をしていくうえで、生徒がSDGsを学習することによって、グローバル人材育成ができると思ひ、SDGsの展示がある「地球ひろば」へ訪問した。今の高校生は何でも調べて知る世代であり、PCやSNSを通して理解することが得意である。しかし、展示では社会課題を解決しているたくさんの企業を見学できたり、実際に触ったりすることができ、SDGsを身近に理解することができた。また、ワークショップで社会課題についてわかりやすい説明で理解することができ、全体を通して授業では体験することができない効果的な学習をおこなうことができた。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

10月に学校説明会で授業を担当し、3年生の教科(商業)科目(課題研究)「ソーシャルビジネス」の授業を、中学生と保護者に向けて「なぜ、今、SDGs?」をPower Pointを活用して授業を行った。また、2年生の教科(商業)科目(マーケティング)で、生徒がSDGsの視点からベトナムの社会課題について調べ、課題を解決するために企業がおこなっている取り組みについて、Power Pointを英語で作成して、英語で発表をおこなった。これらの科目については来年度も担当して継続して取り組んでいくつもりである。また、来年度は中学生への出前授業へも積極的に出向き、ビジネスの授業の中で、ビジネスの視点から国際理解教育を取り入れた授業実践をおこなってきたい。

【自己評価】

11. 苦勞した点	SDGsの17の目標で、各自が解決したい目標別に5つのグループ(3~4人)を作った。男子生徒が4人なので一人ずつ別れさせ1グループだけ女子生徒だけになった。高校3年生6クラスから選択してきた生徒なので、話をしたこともなければ名前も知らない関係で、グループワークをさせるのは苦勞した。そこで、JTのCM(スペシャルムービー「想うた 同期を想う」篇(180秒)性格も趣味も特技も異なる同期入社の二人が“凸凹コンビ”として、ぶつかり合いながらも、違いを認め合い、想い合うことで成長していく様子を描いたもの)を作業の始まりに何度か見せ、チームワークの大切さを動画で理解させた。年度当初にこれらのことを想定した授業を計画しておけばよかった。
12. 改善点	単元計画が授業内でできなかつた。2学期からSDGsの視点から「パラグアイの社会課題をビジネスの力で解決しよう」を授業で始め、ポスターセッションの日を決め、逆算して授業計画を立てたが授業内ではできず、放課後等を使って準備しなければならなかつた。1、2学期を使い計画できるよう改善してきたい。

<p>13. 成果が出た点</p>	<p>1. 千葉日報の記事を読んで、SDGsの17の目標のどこに該当するか考え、マイクを使って発表したことで、生徒は伝える側と聴く側の態度を理解することができ、一番の成果は人と考えや意見が違っていてもよいことを理解することができた。</p> <p>2. パフォーマンス課題の設定と実践をすることができた。①本質的な問いが活動に埋め込まれていることについて、重要概念のSDGsの視点からパラグアイの社会課題を解決することが理解されていた。②共有可能な成果物が作成されることについて、「要約（和文・英文）、要旨（英文）、ポスター」の作成ができた。③成果物が何らかのアクションにつながっていることについて、伝えたい・変えたい対象・相手が具体的で、ポスターセッションで活用できた。</p>
<p>14. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）</p>	<p>【男子生徒】</p> <p>1年間、私がソーシャルビジネスを学んでみて1番印象に残っているトピックスは、SDGsについてです。もともとSDGsについて全く知らなかった私は、こんなに大きな規模での目標があることに、とても驚きました。そこから徐々に調べていくうちに、日本にも達成できていないことがあることを学びました。教育をしっかりと受けられていない子どもや女性の社会進出など、普段あまり気にしていないことがその多くで、いかに自分の興味や関心が狭かったのか思い知りました。そのSDGsをパラグアイでさらにビジネスで解決するということでは、自分なりにどうしたら日本とパラグアイ両国にメリットがあるビジネスができるかを軸に制作を進めました。班の友達と協力しながら、ドライフルーツを使ったいいアイデアが出せてよかったです。最後に、授業を振り返ってみて、この授業をとっていなかったら知らなかったこと、わからなかったことがたくさんあったなと思いました。とても興味深い授業でした。</p> <p>【女子生徒】</p> <p>ソーシャルビジネスの授業の中では、なかなか行く機会のないJICA地球ひろばに行くことができたり、ソーシャルビジネスで作成した自分たちのポスターを実際にJICAの方や千葉日報の記者の方に聞いていただいたり、とても貴重で特別な体験をさせて頂きました。また、私はもともとSDGsという言葉すら知りませんでした。ソーシャルビジネスで学んだ後から、インターネットやニュースなど様々な場所でSDGsを発見しました。そのたびに嬉しく感じ、ソーシャルビジネスで学んだことは無駄ではないのだと実感することができました。ソーシャルビジネスは、ためになるだけではなく、学んだ知識が将来役に立つ数少ない貴重な授業だとも感じました。実際に大学受験での面接でもSDGsの話題が出てきましたし、珍しい授業ということでソーシャルビジネスの授業内容を聞かれましたが、次から次へと言葉が出てきた自分にはとても驚きました。それほど充実した授業を1年間受けることができました。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>今回の研修を一言でいうと、「毎日感動」でした。サンタエレナ小学校交流プログラムをはじめ、普段は接することのできない小学生などの子供たちと交流できたことは、とても良い体験となりました。特に、カテウラ音楽団学校の子供たちの演奏を聴かせてもらい、心が揺さぶられました。また、異校種の参加者とJICAの方や通訳さんなどの異業種の方々とは過ごした研修期間もよい体験となりました。異校種の方と研修をするのは初めてのことで不安がありましたが、それ以上に、年齢差から参加者とうまくやっていけるのかのほうが、不安が大きかったです。それは、私自身にとって大きなチャレンジでした。しかし、みなさんに助けられ、楽しく研修を終えることができました。海外研修を終えて、JICA隊員の方々からたくさんの刺激とヒントをいただくことができ、今後の国際理解教育と開発教育に活かせていくことともに、グローバル人材育成に取り組んでいきたいと思えます。</p>

参考資料：

1. 「教育改革から考える海外教育の効果的活用とは」
聖心女子大学現代教養学部教育学科 教授
東京大学高大接続研究開発センターCoREF 協力研究員 益川 弘如
2. 日経ソーシャルビジネスコンテスト関連特集
「SDGs 時代にこそソーシャルビジネスを」
慶応大学大学院特任教授/横田アソシエイツ代表取締役 横田浩一
3. 自分ごとからはじめよう SDGs 探求ワークブック
～旅して学ぶ、サステイナブルな考え方～
【共著】保本 正芳・中西 将之・池田 靖章 NOA 出版

About Substitutional Meat's Production Plant for Woman

Chihaya High School Group: Peteī

Keywords; gender gap, soy, women

SDGs: 1, 5, 8, 10

1. Introduction

Women are prone to be seen as inferior to men. Such problems exist in the world. For example, unfair wage, employee's rate, and working balance. We focused on this problem in Paraguay. This country still has a strong gender gap, in rural areas. It is so severe that women can't touch money. Alas, some are forced to be single mothers in circumstances such as having difficulty doing jobs and house work. So, we suggests a business to help women in bad circumstances.

2. Methods and results

Paraguay ranks sixth in the world for soybean production, and is placed between America, Africa and The Middle East. So, these days, foreign companies have been expanding in Paraguay. There is a variety of religions or ways of thinking there, such as Islam, Christianity, Buddhism, veganism, and vegetarianism. The number of vegetarians and vegans population in the world is 11%. Substitutional meat can be used in many ways on food production, food companies around the world focus on it. In the instance, Halal commerce (Muslim's Food business which uses substitutional meat) is estimated to be worth about 10,000,000,000,000 yen and McDonald introduced it in their hamburgers. We are building the factory in a rural area so that every women can work there. This project provides them with appropriate labor time and wages.

3. Conclusion

Foreign companies have become increasingly popular in Paraguay. If more foreign food companies have branches here, it would be more effective to sell substitutional meat than to export it.

4. References

ミタイミタクチャイ子供基金・栃木県立佐野高校・ウィキペディア

About Substitutional Meat's Production Plant for Women



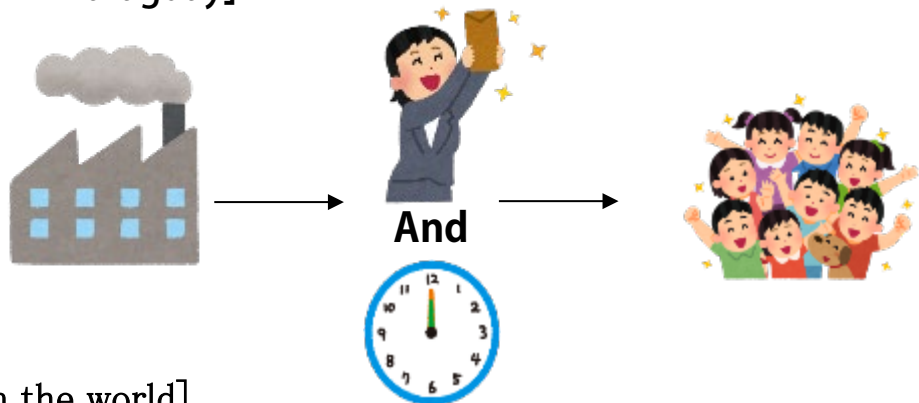
Chihaya High School, Group: Petei

1. The problem in Paraguay

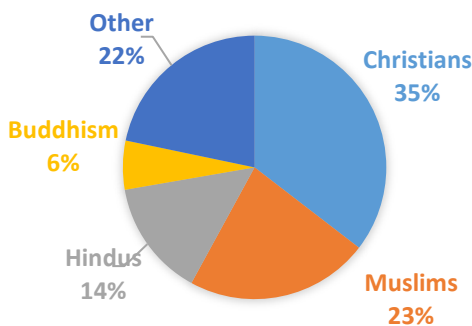
- Gender gap
- Unwanted pregnancy
- To balance job and parenting

[The top of production in Paraguay]

1. Soybeans
2. Sesame seed
3. Grape fruits



[Religious distribution in the world]



[Halal business]
↓
Profit
1,000,000,000,000,000

[Conclusion]

▪ it would be more effective to sell substitute meat to food companies in Paraguay including foreign companies.

THE COMMERCIALIZATION OF JABOTIKABA

Create a Foundation for Life by Ourselves

Chihaya High School, Group: Po

Key words: Jabotikaba, education

SDGs: 1, 4, 8, 11, 16, 17

1. Introduction

Paraguayan children need 9 years of education. However the high dropout rate is a problem. The main causes for this are income inequality and poor school equipment and facilities. Therefore, we focused on educational content to solve this problem. We used the idea that If you give a man a fish, you feed him for a day. But if you teach a man to fish, you can feed him for a lifetime.

At first, we thought about how to get a high-quality classroom to study in. But then we realized that they need a more hands on education. We think that teaching Paraguayan students how to process local fruits, commercialize and connect to local businesses is important.

The profits generated from these businesses can then be used to educate the next generation of children.

2. Methods and Result

Many fruits, vegetables and grains are grown in Paraguay. We learned that there are some excellent fruits that are not well known in the world. Among them, we focused on a fruit called “Jaboticaba”.

Jaboticaba looks like grapes. It is rich in vitamin c, potassium and polyphenols and it is said to be good for beauty and health. However, Jaboticaba is delicate enough to lose its taste if they are not eaten within 15 minutes of harvest. Therefore, we thought that it would be possible to produce excellent and delicious fruits without sacrificing quality and taste by processing locally after harvesting.

First, we thought about processed foods made from Jaboticaba. Here are some conditions we don't want to remove. Things that can be done without large facilities such as factories, and less expensive without relying on tools. Based on these conditions, we aim to commercialize jams, dried fruits, and juices. We also want to teach instructors in each region how to make processed foods and tools to suit. Finally, the products made there will be sold locally and in Japan, and the profits gained will be used for children's educational expenses.

3. Conclusion

This project aims to help the people of Paraguay continue to improve their lives by generating money by themselves, rather than waiting for other people's assistance, such as donations, in the future.

The Commercialization of Jabotikaba

Create a Foundation for Life by Ourselves

Chihaya High School, Group: Po

• What Is "Jabotikaba" ?



Jabotikaba

Jabotikaba is a tropical fruit. We can harvest a lot at once. It looks and tastes like a grape.

Recently, it has been attracting attention because it is said to be good for beauty and health promotion.

• The Actions Our Business

